



新春餅つきハイキングに参加して

太田 就士

私は近い将来日本とロシアの架け橋になろうとの思いから、現在日本ロシア学生交流会の代表を務めさせていただいている。近隣の国でありながら、一般日本人にとっては、「ロシア語を学んでいる」「ロシアに興味がある」というだけで驚かれるような、遠い国になっている。このことは我が国にとって決して好ましいものではないと思っている。そういう意味ではロシア人と交流し、お互いの文化や考え方を理解し合うことが最も求められているのではないだろうか。海外在住経験があり、外国の方と関わる機会が多い私からすると、一般的にロシア人はとにかく親日的で同僚として対等に対応してくれる人たちだという印象を持っている。この国にもっとロシアの風を吹かせて、ロシアをもっと身近なものにしたいと本気で考えている。

去る1月27日開催の新春餅つきハイキングに参加させていただいたが、本来ロシア人と日本人の交流の場であったはずのイベントなのに参加予定のほとんどのロシア人がインフルエンザに罹り、たつた一人だけの参加者になってしまったことは驚きであった。参加されたロシア人がお餅を餡子や黄な粉でとてもおいしそうに食べている姿は印象的で、味覚を共有できる方たちだという嬉しい発見が出来た。当日はロシア以外にも色々な異文化を持たれる方々との出会いに恵まれ多くの事を学ぶことが出来た。何よりも面白いと思ったことは、参加された日本人の中でも世代の違い、経歴の相違等によりロシアへの関心や興味を持ち方が多種多様であるということだった。

今回参加された方の多くは「ロシア人」に少なからず興味を



持ちロシアを理解したいとの思いからであり、日本の伝統的食べものを空気のきれいな野外で一緒に食べながら歓談する楽しみを求められていることが理解できた。

人生未だ20年の私にとってこれまで「ロシア」という国に接する機会は全くと言っていいほど皆無であった。今回のイベントによりこれまでと違った切り口で「ロシア」という国の文化に触れ、興味を持っていたことは、僕にとって大変興味深く驚きの大きいものであった。逆にいえば、現在様々なロシアに触れる「切り口」が僕の知らないところにすでに存在しているということだ。このイベントに参加して、このような学びを得ることができたことは僕にとって大変意味のあるものであった。もちろんロシア人と触れ合い、彼らの文化に直接触れることは大切である。しかし、ロシア人に限らずロシアを軸とした人たちが一つの場に集まり、交流して情報共有をするのもまた大切であると思った。

また、今回のイベントに参加したことで改めて「人と何かをする」ということはとても楽しいことだと感じた。結局、人とのコミュニケーションは非言語を駆使すればなんとかなる。今回の餅つきといったような体験型で共同作業を必要とするものはより一体感を生み仲間意識を芽生えさせると感じた。今後もこのような学びをもとに日露交流の活発化に尽力していこうと思う。(慶応義塾大学法学部1年)